

## ネット平塚・アンケート調査結果から考える

# 中学校の昼食「食のセーフティネット」としての位置づけを！

神奈川県ネットワーク運動・平塚では、昨年末より年明けにかけて「中学校の昼食に関するアンケート」を実施し、市内に住む103人の方から回答を得ました。回答結果を踏まえ、今後の中学校の昼食について考えます。

### ◆9割が中学校給食を希望

回答者のうち約半数の55人は現在中学生または近年卒業したお子さんがいる方、半数はいない方で、現在市が一部補助を出し販売されている業者弁当を利用していることがある方は25人でした。その利用回数は3年間で1回のみの方から多くても月に2〜3回で、お弁当を作れない時に使える利便さはあるものの、費用負担や量の多少、味の好み、注文の手間や昼食時間が短いこと等々の理由で利用食数は多くなく、現状のままでは先細りになる可能性が大きいと感じました。

今後の昼食のあり方について、5つの選択肢の中から、試算した1食当りのコストも参考に選んでいた結果が左記の表です。

- |                  |    |    |
|------------------|----|----|
| ① 単独校での調理方式      | 14 | 30 |
| ② 共同調理場での調理方式    | 41 | 30 |
| ③ デリバリー弁当（全生徒対象） | 3  |    |
| ④ 〃（家庭弁当併用制）     | 14 |    |
| ⑤ 業者弁当販売（現行方式）   | 14 |    |

現在県内で取組む自治体が増えている③④のデリバリー弁当方式を含め中学校給食の実施を望む声が約9割で、他の予算を削ってでも中学校給食を実施すべきと①②を選択する方、本来は小学校と同様の方式が望ましいが子ども数が減少する中で多額の税金が必要となる①②方式を諦め③④を選択する方、子どもが減少するのだから現在の調理場で中学校の給食もつくれないかなど様々なご意見がありました。



### ◆平塚市における検討経過

平塚市では2011年7月に学校給食検討委員会が設置され、新食器の導入、老朽化した小学校共同調理場対策、中学校給食、の3つのテーマについて検討が行われましたが、中学校給食については財政負担が大きいことから実施は難しいとの判断がされました。

昨年5月に設置された中学校昼食検討委員会は、改めて給食実施も視野に検討を行うもので、この間、他市町への視察等を踏まえた検討はこれからのこと。3月には16才〜60才の市民1000人を対象にアンケート調査が実施されます。

### ◆小学校共同調理場新設と併せ中学校給食の検討を！

これまで平塚市は中学校給食についての検討を小学校給食とは切り離して行ってきました。2012年末に提出された学校給食検討委員会報告書では、小学校給食について、老朽化し耐震不足が指摘された東部、北部の両共同調理場の耐震補強や改築は、工事中給食が作れなくなること・工事スペースの問題・学校給食法衛生管理基準のドライシステム対応にすると、作れる食数が少なくなり必要数が作れなくなる、などから「東部を補強し、北部を閉鎖、新調理場をつくる」2案と「東部・北部とも閉鎖し新しい調理場を2場建設する」案が示されました。しかし昨年3月発表された平塚市公共施設再編計画では、東部・北部2場を統合し新たな場所に大規模共同調理場を新設する方向に変更されています。

小学校給食共同調理場新設の方向性の中で、中学校給食の検討も併せて行っていくことが必要と考えます。給食を「子どもの食のセーフティネット」として位置づけ、持続可能な制度にしていくことが必要な時代になっています。